



TITLE:

生命医科学情報基地としての京都 大学医学図書館

AUTHOR(S):

CITATION:

生命医科学情報基地としての京都大学医学図書館. 静脩 2006, 42(2): 18-19

ISSUE DATE:

2006-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37787>

RIGHT:

生命医科学情報基地としての京都大学医学図書館

京都大学 医学研究科閲覧掛

「電子ジャーナルにアクセスできません。」「明日までに論文が必要です。」「インパクトファクターが高い 雑誌を購入してください。」これらは、京都大学医学図書館（以下、医学図書館）に寄せられる問合せや要望を代表しています。

医学図書館は、電子ジャーナル等の電子媒体によって、先進的で国際的な最新情報を求める利用者が多い図書館です。医師や看護師等の国家試験のための学習環境の整備にも努め、PBL（問題解決型学習）を進める医学教育も支援しています。

1. 医学図書館の位置付け

医学図書館は、1965年、医学部構内に分散配置されていた各教室の雑誌・図書を集中化する目的で建設されました。

現在は、医学研究科および附属病院とその関連部局（医学部保健学科、再生医科学研究所、ウイルス研究所、放射性同位元素総合センター、放射線生物研究センター）から選出された委員から成る医学図書館運営委員会により運営されています。医・薬・保健学分野の情報拠点として、最新の知識の習得や創造を目指す学内外の研究者、医療従事者、学生を中心とする多くの利用者のニーズにこたえるべく、電子情報を含む文献資料の整備、複写サービス、情報リテラシーの向上などに積極的に取り組んでいます。

2. 資料・情報の特徴

1) 紙媒体

蔵書数は約19万冊、うち、図書と製本雑誌の比率はおよそ3対7です。生命に携わる分野であり、常に最新情報を必要とすることから雑誌に比重を置いてきた歴史が伺えます。日本には稀なピュフ

ォンの「Histoire naturelle, generale et particuliere」（1785-91）等、医学図書館が所蔵する貴重資料は京都大学電子図書館で閲覧できます。



医学図書館のWebサイト
(<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/>)

2) 電子媒体（データベース・電子ジャーナル・電子ブック）

医学系のデータベース、電子ジャーナルおよび電子ブック（Ebooks）の一部は全学共通経費のほか、医学図書館の独自予算で購入し全学にも提供しています（表1）。電子ジャーナルを研究室で利用だけでなく、自宅や出張先で利用できる

表1 医学・医療系の主要データベース

データベース名	特 徴
医中誌Web	国内の医・歯・薬学等の定期刊行物から採択した文献データベース。収録1983年～。
Medline(@Ovid版、Silver Platter版)	生物・医学系文献データベース。収録1966年～。
Cochrane Library	EBM(evidence-based medicine:科学的根拠に基づく医療)のためのデータベース。Cochrane Libraryは年4回更新。
EBM Reviews	
AgeLine	老人問題、心理学等、老年学に関する文献データベース。
AMED: Allied and Complementary Medicine	代替・補完医療に関する文献データベース。
CINAHL	看護学関連の文献データベース。
SPORTDiscus	スポーツ医学関連の文献データベース。
UpToDate	診断・治療・予防に関する臨床支援ツール。年3回更新。
Integrity	医薬品開発の関連情報、実験データを網羅的に収録。収録1968年～。[附属病院を除く医学部内のみ]

注) 京都大学内LANに接続された端末で利用できるデータベース参照
(<http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/databases.html>)

リモートアクセスの需要が他部局より非常に多いのも医学系の特徴です。冊子体より約2ヶ月早く読める電子ジャーナルは、学内提供約9,500タイトル中、約1,700タイトルが医学系で、最新の研究や緊急を要する手術等の医療に不可欠です。

3. 医学図書館の主な利用者サービス・活動

1) 医学医療情報の提供と利用促進

医学図書館のホームページを情報基地として、データベース、電子ジャーナル等を活用するためのQ & A等様々な情報を提供しています。図書・雑誌の遡及入力を積極的に推進したことにより、京都大学蔵書検索（OPAC）で検索できる資料は、平成17年度末で医学図書館所蔵資料の85%程度（研究室分を除く）になる予定です。平成17年10月の自動貸出機の導入により、プライバシーの保護や利用促進も図っています。

2) 文献複写物の提供

学内で入手できない文献は、他大学や海外（British Library, National Library of Medicine）等、どこからでも入手して提供しています。早く入手したいという利用者の要望にも迅速に対応しています。

3) 情報リテラシー教育支援

購入した情報資源を学習・研究に効果的に活用していただくための講習会や授業を積極的に企画・実施しています（表2）。

4) 他大学との連携協力

京都大学医学図書館（保健学科図書室を含む）は、京都府立医科大学附属図書館と相互協力に関する協定を締結しました（平成16年8月1日施行）。入館・閲覧・貸出等についての利用者サービスを相互に行っています。所蔵する情報資源の有効利用及び利用者の学習・教育・研究に資することを目的にしています。

他大学等からの文献複写の受付件数（NACSIS-ILL）は、全国10位前後です。調査研究を行っている全国の方々に、各図書館を通じて文献を提供しています。

5) 地域・社会貢献

入館者の6%（平成16年度4,100人）が学外者です。京都府医師会等の地域の専門的な医学医療関係者から、他大学他機関の学生、患者さん等の一般利用者まで幅広く支援しています。

表2 医学図書館が実施する情報リテラシー教育支援

平成17年度	講習会・授業等の内容
3-4月	図書館の利用について(医員・研修医オリエンテーション)
4月	OPACの使い方講習会
4-5月	授業「社会健康医学基礎スキル(文献検索評価法)」 (社会健康医学系専攻専門職学位課程、選択科目)
5月	授業「医科学研究」(医科学専攻修士課程1回生、必修科目)
6月	オンラインジャーナルの使い方講習会
6月	SciFinder Scholar講習会
7月	UpToDate講習会
10月	授業「D医療情報学」(医学部医学科3回生、必修科目)
10月	Scopus講習会
11月	PubMed講習会
12月	Web of Science & Derwent Innovations Index講習会
1月	効果的な文献検索結果の活用-EndNoteの利用-講習会
随時受付	オンデマンド講習会

4. 医学図書館の課題と展望

施設の老朽化への対応と施設整備：築40年の医学図書館は、老朽化が著しいため、防水・耐震性等の改善を行うとともに、新しい時代感覚とニーズに対応した学習環境を整える必要があります。

医学図書館運営費の確保：電子ジャーナル等の資料費増大に伴う、研究室負担額の上昇への打開措置、購入希望を取り入れた経費負担方法等の検討を要します。

情報リテラシー教育の推進：授業や講習会等を通じて、情報を活用し問題解決能力を高めるための情報リテラシー教育支援を一層積極的に推進します。

企業や病院で実施されるようになったPDCA(Plan 計画-Do 実行-Check 評価-Action 検討改善)サイクル等により、業務の合理化、コスト削減を図りながら、図書館の質とサービスの向上をめざし、利用者の期待と信頼に応え続けるように努めていきたいと考えています。